1

令和8年度　学校教育の在り方

まちの未来をひらく
子供たちが育つ
学校をみんなで
創る。

シンポジウム in いびがわ

“夢をもって共に生きる、いびがわの子”

＜日 時＞ 令和８年８月22日（土）午後１時30分 ～
＜会 場＞ 揖斐川町地域交流センター はなももホール

2

NO. 0 THE MAIN ISSUE

まちの未来をひらく 子供たちが育つ学校をみんなで創る。

- 昨年７月、揖斐川町の将来を見据えたこれからの学校教育の在り方について検討する審議会を立ち上げ、町民の皆さんと一緒に考える機会をつくりました。この間、
  - ・ アンケート調査　2,116人
  - ・ 町内７地区集会　182人、シンポジウム　121人
  - ・ 就学前の保護者、教職員との意見交換会　130人
- のべ **2,549人** の皆さんからの貴重なご意見をもとに、子供たちに必要なこれからの学校教育について審議を重ねてきました。
  ご協力いただきましたことに心より感謝を申し上げます。
- 本日のシンポジウムでは、これまでの審議の中で提案された教育内容や教育環境等について意見を交わしたいと考えています。



3

NO. 1 THE MAIN ISSUE

少子化・学校の小規模化に伴う 学びの困難さをどう克服するか。

＜課 題＞

- コミュニケーション能力や社会性が身に付きにくい。
- 仲間と切磋琢磨できる環境の中で意欲や向上心、成長が引き出されにくい。
- 多様な見方や考え方に触れることが難しく、学力向上への懸念がある。

＜基本的な考え＞

1　確かな学力の育成
- 個別最適な学び＆協働的な学び、非認知能力の育成、探究的学びの充実
  （学びに向かう力、向上心、自己肯定感 等）

2　地域社会（ひと・もの・こと）とのつながりを大切にした教育の推進
- 異年齢・世代、異文化・異言語など様々な人たちとの交流
- ふるさとへの誇りと愛着を育む「探究いびがわ」（特設教科）の開設

3　だれ一人取り残さない教育の推進
- 特別支援教育の充実（揖斐特別支援学校との連携した特別支援教育の充実）
- 不登校未然防止・児童生徒支援（西濃学園のノウハウを活用した多文化分教室）
- 学び直しの機会の拡充（地域の学びの拠点「学び舎IBIGAWA」、夜間中学の新設）

4

NO. 1 THE MAIN ISSUE

少子化・学校の小規模化に伴う 学びの困難さをどう克服するか。



NO. 2 THE MAIN ISSUE

5

学校統合のメリットとデメリットの優位性が判断できない。

＜課 題＞

メリット	デメリット
● 集団性による社会性の向上 ● 複式学級の解消、学年を２学級以上で編制 ● 施設設備の効率的な維持管理	● 教員のきめ細かな見届けや支援の不足 ● 通学区域の広域化に伴う負担増 ● 地域コミュニティの核の喪失

＜基本的な考え＞

1 学校統合に対する住民の意向（住民アンケートの調査結果）
- ▶ 適正なクラス数 ➡ 小・中１学年２クラス以上（小82.2%、中93.1%）

2 人口推計データに基づく学校統合の合理性
- ▶ 出生数の減少 ➡ 直近２年間４８人＝学年２クラス規模
- ▶ 令和14年の壁 ➡ 小学生400人（268人減）、中学生298人（112人減）

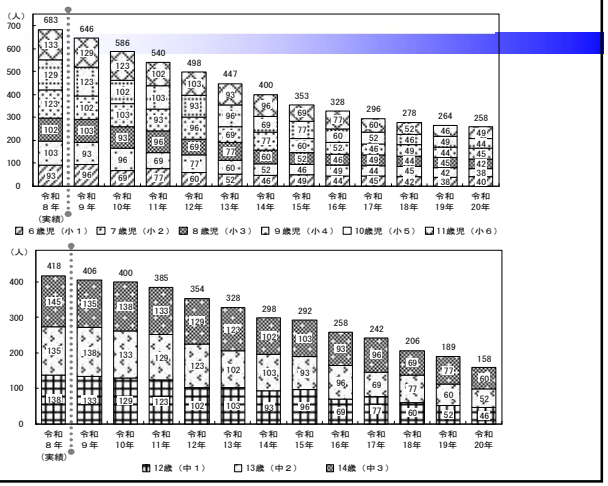
3 地域とともにある学校づくりの更なる推進
- ▶ 地域学校協働活動による自助・共助・公助に基づく教育活動の展開

4 メリットを活かしデメリットを最小化する取組み
- ▶ クラス替え可能な集団規模で教員配置により、きめ細かな指導を展開
- ▶ スクールバスの効果的な運行により、登下校の安全確保と負担軽減

NO. 2 THE MAIN ISSUE

6

児童生徒数の将来推計



NO. 3 THE MAIN ISSUE

7

学校統合する場合の規模と時期をどうするか。

＜課 題＞

学校統合の規模	学校統合の時期
案① 小学校１校と中学校１校 案② 小学校２校と中学校１校	案① 小中学校を同時期に統合（養基小を含む） 案② 小を段階的に統合し最終的に小１校と中１校に統合

＜基本的な考え＞

1 学校統合の規模
- ▶ 住民の意向、児童生徒数及び学級数の推移を踏まえ、
  【案①】小学校１校と中学校１校が妥当（併設又は単独）

2 学校統合の時期
- ▶ 令和１４年以降が適当

区 分	令和１１年	令和１４年	令和１７年
児童数	５４０人	４００人	２９６人
生徒数	３８５人	２９８人	２４２人
クラス数	小：全学年３学級以下 中：全学年４学級	小：過半数の学年２学級 中：全学年３学級	小：全学年２学級 中：２学級の学年が出現

※ 児童生徒数・学級数の推移（推計値）

NO. 4 THE MAIN ISSUE

8

学校統合する場合の設置場所をどうするか。

＜課 題＞

- ● 広域な町内に在住する児童生徒の通学の安全確保と負担軽減
  - ・ 町内各地域から均一な距離、時間にある場所、スクールバスの効率的な運行による通学及び安全性と時間短縮
- ● 学校設置に係る経費の抑制
  - ・ 既存校舎の利活用、新たな土地取得や建築資材に係る費用の削減

＜基本的な考え＞

1 揖斐川町の「人口重心」を考慮した場所
- ▶ 揖斐川町上南方565番地付近 ➡ 大和小、北和中

2 児童生徒の通学に係る負担をできるだけ軽減できる場所
- ▶ 町内の各地域から均一な距離と時間 ➡ 北和中

3 既存の学校の安全性
- ▶ 土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、浸水区域の指定なし ➡ 北和中

4 既存の学校の利活用

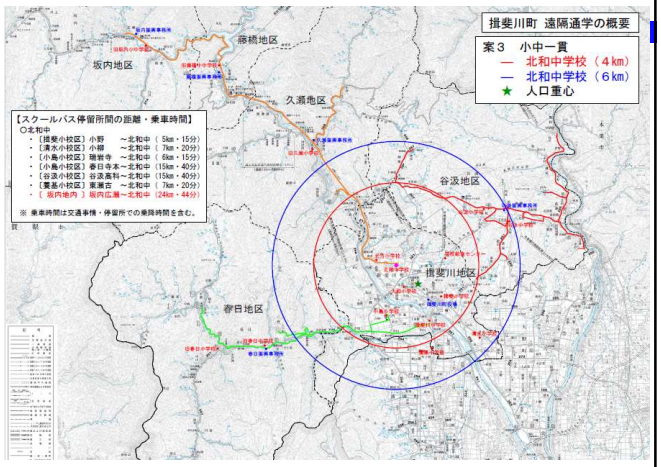
校 舎	築年数	揖斐川中・北舎15年（H22年）	大和小・北舎16年（H23年）
	総床面積	揖斐川中5,190㎡（4階）	揖斐小4,104㎡（3階）
体育館	築年数	北和中13年（H25年）	谷汲小19年（H19年）
	床面積	北和中3,119㎡	揖斐川中1,711㎡

NO. 4

THE MAIN ISSUE

人口重心点と通学の距離・時間

9



NO. 5

THE MAIN ISSUE

設置可能な学校の形態

10

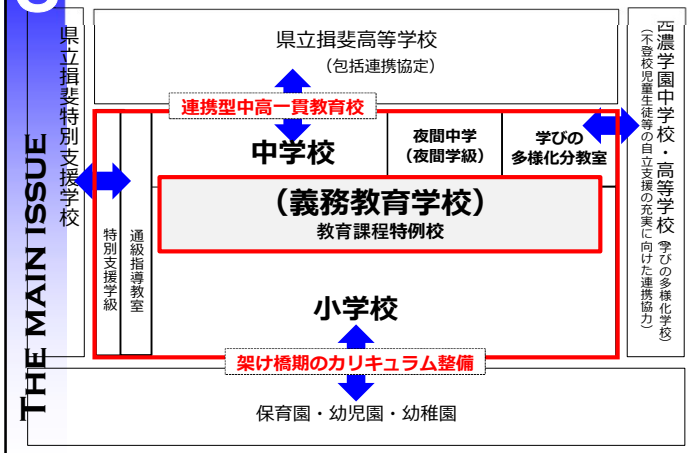
学校の形態		特　徴	メリット
小中一貫教育	併設型 小中一貫教育校	・教育課程を 小６年＋中３年で編成 ・小学校＆中学校で 各校長が統括	● 異学年交流による教育活動の充実 ● 教員の小中兼務による教科担任制の可能性
	義務教育学校	・小中学校９年間の一貫した義務教育 ・一人の校長による学校全体の統括	● ９年間を通じた系統的な学習が可能柔軟な教育課程の編成 ● 「中1ギャップ」の解消により、過度な心理的負担の軽減 ● 学校施設や教育資源の効率活用
中高一貫教育	併設型 中高一貫教育校	・中学校-高校の教育課程や教育活動の接続 ・一人の校長による学校全体の統括	● 学習内容の先取りや補完が可能 ● 異なる年齢層の生徒同士の交流個性や創造性、社会性の育成
	連携型 中高一貫教育校	・中学３年間＋高校３年間の計画的、継続的な教育 ・中高学校での各校長が統括	● 連携型中学校の生徒も希望に応じて他高校への進学も可 ● 連携型高校への進学時の面接や実技等、簡便な方法で選抜
学びの多様化学校 （学びの多様化分教室）		・児童生徒の状況に応じた柔軟な教育課程の編成 対象：年間30日以上欠席、不登校傾向の児童生徒等	● 学習指導要領の内容の弾力的（30%程度）な取扱い ● スクールカウンセラーの常駐
夜間中学 （中学校夜間学級）		・夕方以降の時間帯の授業 ・週５日間の授業 給食の提供も可能 ・授業料無償 ※公立	● 年齢、国籍、経歴等に関係なく新たな学びや学び直し ● 教育課程の弾力的な編成・実施により自分のペースで学習が可能

NO. 6

THE MAIN ISSUE

夢のある、新しい学校を創る。

11



NO. 7

THE MAIN ISSUE

夢のある、新しい学校を創る。

12

- 「グローバル社会」の進展が言われて久しい。国家や地域を越えて、互いに影響を与え合う社会。政治経済を始め、スポーツや芸術、技術や情報など、様々な分野でボーダーフリーな交流が行われるようになっている。
- “オール岐阜”“揖斐郡は一つ”と言うけれど本当にそうだろうか。まだまだ地理的な区割りや旧来の利害関係等に縛られた狭い視野の中で物事をとらえ、同調的な思考から抜け出せないでいるように思えてならない。
- ならば、新しい時代を生きる子供たちには、川を渡り、山を越え、海の向こうにいる価値観の異なる様々な人たちとつながり合って共に生きる新しい社会をつくってもらいたい。
- そうした子供たちが育つ学校教育を創るため、夢のある話をしようではありませんか。

